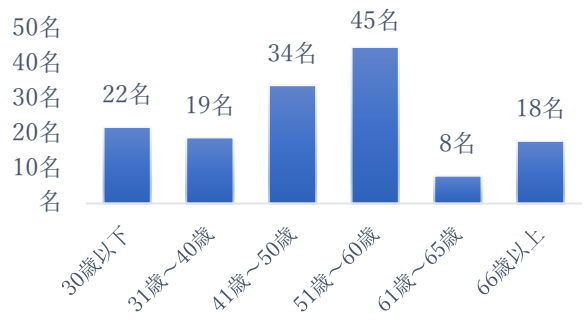
## 1. 職員状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

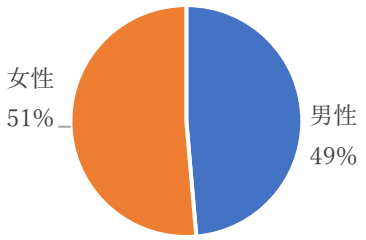
| | 施設長 | 介護支援専門員 | 生活相談員 | 管理栄養士 | 機能訓練指導員 | 看護職員 | 介護職員 | 介護補助員 | 事務員 | 環境整備 | 送迎 | 宿直員 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 桜ヶ丘 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 7 | 44 | 0 | 2 | 4 | 0 | 6 | 70 |
| 荏　田 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 8 | 45 | 2 | 1 | 5 | 4 | 4 | 76 |

※職員数は非常勤（パート職員）を含む

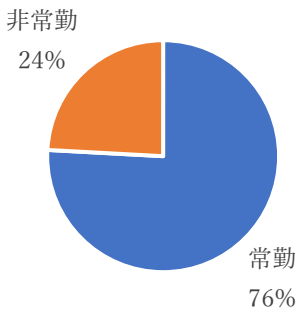
■職員年齢構成



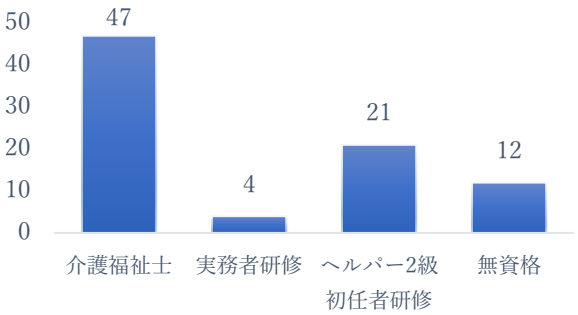

■職員男女割合




■常勤／非常勤割合（介護職員のみ）




■資格者構成（介護職員のみ）




## 2. 令和6年度介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘実績報告

Ⅰ　自立支援介護の考えを基に入居者個々の状態に合わせた目標を多職種で設定してケアの実践に取り組む

令和6年度は、自立支援介護に基づく基礎ケアを基本として、入居者一人ひとりの日常生活から課題を抽出しました。多職種が協力医療機関と直接連携する機会を持ち、各種会議や委員会活動、往診・検査などのデータ、介護ソフトによる経過記録を通じて、情報共有を図ることができました。このことにより、体調不良等の早期発見・相談も可能となりました。また、日常生活を見守る介護と、対象入居者への対応にあたる各職場でそれぞれの役割を確認し、一人ひとりに応じた対応が可能となりました。感染対策を徹底したうえで、ご家族による居室内での面会も継続して実施できました。

## Ⅱ　組織での役割を理解した人材育成を通して職員の資質向上を目指し取り組んでいく

入職2年以内の職員を自立支援介護委員会のメンバーとして構成することで、Web 研修を通じた基礎ケアについて主体的に考え、取り組む姿勢を促すことができました。「食事・水分・排泄・運動」といった日常生活を支えるケアに対し、目的意識を持って対応できるようになりました。さらに、各職場では、時間・方法・回数などについて工夫を重ね、基礎ケアを通じて職場間の連携方法を学ぶ良い機会となりました。

## Ⅲ　安全な職場環境づくりに努める

令和6年度も引き続き、安全管理の一環として、施設内で使用する福祉用具や備品の定期点検を実施しました。福祉用具や備品は日常的に使用するため、職員一人ひとりが日々の確認を行うことで、破損や故障への早期対応が可能となり、事故防止につなげることができました。新たに導入した福祉用具についても、目的に合った使用方法を十分に検証したうえで、安全かつ効果的に活用することができました。

## Ⅳ　地域の福祉ニーズに対応できる安定した施設運営を目指す

安定運営のため、稼働率を 95%と目標に設定していましたが、前年と比較して入退居件数が約 4 割増加し、退居前の入院期間の影響もあり、目標を達成するには至りませんでした。空床はショートステイで稼働させることで事業全体としての運営に取り組みました。

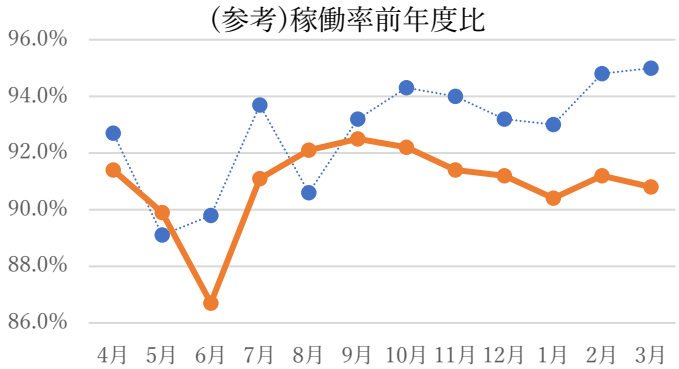
地域交流スペースについては、地域住民による介護予防サービスなど、住民主体の活動に活用いただくことができました。また、「福祉の魅力を伝えるプロジェクト」への職員派遣や、大和市高齢者福祉施設協議会主催の「高齢者施設取組発表会」への参加も継続して実施しました。

**■苦情・相談受付**

| 時期 | 区分 | 内容 | 申立人 | 対応 |
|---|---|---|---|---|
| 5 月 | 特養 | 入居者の爪切りについて | 家族 | ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく |
| 8 月 | 特養 | 居室の環境について | 家族 | ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく |
| 3 月 | 特養 | 面会時のベッドへの移乗について | 家族 | ご家族に今後の対応を説明し理解をいただく |

**■稼働率推移**

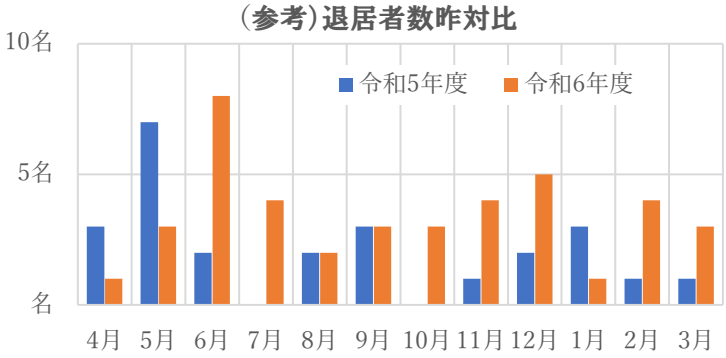
| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ人数 | 2742 名 | 2788 名 | 2601 名 | 2825 名 | 2854 名 | 2774 名 |
| 稼 働 率 | 91.4% | 89.9% | 86.7% | 91.1% | 92.1% | 92.5% |
| | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
| 延べ人数 | 2858 名 | 2741 名 | 2828 名 | 2803 名 | 2554 名 | 22814 名 |
| 稼 働 率 | 92.2% | 91.4% | 91.2% | 90.4% | 91.2% | 90.8% |




| | 計 | |
|---|---|---|
| | (R6 年度) | (R5 年度) |
| 延べ人数 | 33182 名 | 33957 名 |
| 稼 働 率 | 90.9% | 92.8% |

■入退居状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入居 | 2名 | 1名 | 4名 | 6名 | 4名 | 3名 |
| 退居 | 1名 | 3名 | 8名 | 4名 | 2名 | 3名 |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 入居 | 3名 | 4名 | 3名 | 3名 | 2名 | 5名 |
| 退居 | 3名 | 4名 | 5名 | 1名 | 4名 | 3名 |




| | 計 | |
|---|---|---|
| | （R6年度） | （R5年度） |
| 入　居 | 40名 | 23名 |
| 退　居 | 41名 | 25名 |

## 5. 令和6年度短期入所生活介護スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

Ⅰ　稼働率94％を目指し広報活動を継続して行いながら地域の課題の把握に努め、選ばれる事業所を目指す

Ⅱ　利用者や家族の課題を抽出し、生活環境や習慣を把握し個別性を意識したサービスの提供を行いながら本人の意欲や残存機能を活かしたケアを実践する

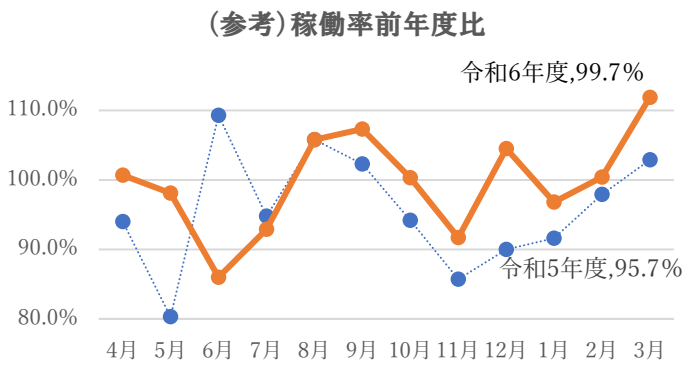
Ⅲ　空床を利用した緊急ショートステイの受け入れを状況に応じて実践していく

短期入所生活介護においては、積極的な空床の活用により、目標とする稼働率を達成することができました。これは、地域の居宅介護支援事業所からの問い合わせに対し、定期利用者の利用状況を適切に共有し、空床利用においても安定したサービス提供を行えた結果であると考えております。

■稼働状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 実人数 | 31名 | 26名 | 22名 | 26名 | 24名 | 29名 |
| 延べ人数 | 302名 | 304名 | 258名 | 288名 | 328名 | 322名 |
| 稼働率 | 100.7% | 98.1% | 86.0% | 92.9% | 105.8% | 107.3% |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 実人数 | 30名 | 28名 | 28名 | 25名 | 27名 | 27名 |
| 延べ人数 | 311名 | 275名 | 324名 | 300名 | 281名 | 347名 |
| 稼働率 | 100.3% | 91.7% | 104.5% | 96.8% | 100.4% | 111.9% |

| | 計 | |
|---|---|---|
| | （R6年度） | （R5年度） |
| 実人数 | 89名 | 80名 |




| | | |
|---|---|---|
| 延 人 数 | 3640 名 | 3503 名 |
| 稼 働 率 | 99.7% | 95.7% |

## 4. 令和6年度介護老人福祉施設スミール荏田実績報告

Ⅰ　入居者本人を中心とした良質な介護サービスを提供する

日々の生活にメリハリを感じていただけるよう、昼食メニューに曜日ごとのテーマを設け、曜日感覚を持っていただける工夫を行いました。また、面会制限を撤廃し、ご家族との交流機会を拡大したことで、入居者の精神的安定にもつながりました。医療面では、新たに緑協和病院と協力病院として提携し、緊急時を含めた医療支援体制の充実を図りました。さらに、歯科との協定締結により、無料歯科健診を推進し、口腔ケアの充実に努めました。安全面では、服薬ミス防止のため、薬ボックスに服薬ルールを明記するなどの対策を講じました。また、苦情への迅速な対応に努め、入居者およびご家族からの声をサービス改善に活かしました。理美容サービスについては、実施回数を増やすことで、身だしなみを整える機会の確保と気分転換の一助となるよう配慮しました。加えて、5月にはご家族を対象とした説明会を開催し、施設の運営状況や取り組みについて情報共有を行いました。不在者投票の実施により、選挙権行使を支援し、入居者の社会参加の継続も後押ししました。これらの取り組みを通じて、入居者一人ひとりの生活が、より豊かで安心できるものとなるよう努めました。

**■苦情・相談受付**

| 時期 | 区分 | 内容 | 申立人 | 対応 |
|---|---|---|---|---|
| 4月 | 特　養 | 退院時の対応 | 家族 | 医療機関との連携を再確認 |
| 4月 | ショート | 外出前のおむつ交換 | 家族 | 家族へ謝罪 |
| 4月 | 特　養 | 服薬ミス | 家族 | 謝罪し、服薬ルールの徹底方法を見直し |
| 5月 | 特　養 | 声かけについて | 本人 | 要件が伝わる話し方について職員間で共有 |
| 6月 | 特　養 | 職員間の連携不足 | 家族 | 特養とショートステイでの対応の違いを説明 |
| 6月 | 特　養 | 職員の対応 | 本人/家族 | 声かけの方法について話し合い |
| 7月 | 特　養 | 爪切りが行われていない | 家族 | 入浴時の確認を再徹底 |
| 7月 | 特　養 | 証書類の管理 | 家族 | お預かり時にチェック表への記入漏れがあったことを謝罪 |
| 8月 | 特　養 | 適切なパッドが渡されない | 家族 | 誤解は説明して、改めて意向を再確認 |
| 8月 | 特　養 | 外出準備が不十分 | 家族 | 謝罪をして、業務手順を再教育 |
| 9月 | 特　養 | 衣類の紛失とその後の対応 | 本人 | 衣類は居室で発見 |
| 10月 | 特　養 | 職員の家族への態度 | 家族 | 確認事項の再周知と職員再教育を実施 |
| 10月 | 特　養 | 他入居者とのトイレ利用について | 本人/家族 | 相手側の認知症状の説明と、ご本人の好意に謝意を伝達 |
| 10月 | 特　養 | 帰設が遅れた際の対応 | 家族 | 謝罪をするとともに、施設の決まりを説明 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10月 | 特　養 | 外出準備が不十分 | 家族 | 謝罪をして、業務手順を再教育 |
| 11月 | 特　養 | 入居者間の関係対応への不満 | 本人/家族 | 状況を確認し、対応を見直し |
| 11月 | 特　養 | 外出準備が不十分 | 家族 | 謝罪をし、外出時の注意点についてマニュアル化 |
| 11月 | 特　養 | 夜間のケア内容の変更について | 本人/家族 | ケア内容変更の際には本人にも誤解のないよう説明する |
| 12月 | 特　養 | 夜間転倒時に救急要請がない | 家族 | コミュニケーションの重要性について職員に指導 |
| 1月 | 特　養 | 職員の態度 | 家族 | 介護職員にコミュニケーションの重要性を教育する |
| 1月 | 特　養 | 夜間のコール対応 | 本人 | 対応が遅れる際の声がけについて再教育 |
| 2月 | 特　養 | 外出時の状態変化の連絡漏れ | 家族 | 情報伝達不足を謝罪 |

## Ⅱ　厳しい人材確保市場において介護職員等の確保と定着のため働きやすい職場づくりを整備する

昨年度は、介護職員等の確保と定着を目的に、働きやすい職場環境の整備に取り組みました。具体的には、職員の通勤負担を軽減するため送迎サービスを開始したほか、遠方からの人材確保に向けて職員寮の準備を進めました。また、職員の福利厚生の一環として、家電量販店と従業員特別価格による提携を実現し、生活支援を図りました。業務面では、新たにユニットリーダー7名を任命し、現場のマネジメント体制を強化するとともに、介護助手やパート職員の活用による業務分担・負担軽減を推進しました。さらに、職員紹介制度を活用した採用にも取り組み、信頼性の高い人材の確保に努めました。加えて、職業訓練校での事業所 PR、ハローワーク主催のミニ面接会への参加、外部機関による就職セミナーや就職フェアへの出展、企業交流会への参加など、さまざまな外部イベントに積極的に参加し、求職者との接点を広げることで採用につなげました。これらの取り組みにより、職員の定着と職場満足度の向上を目指し、継続的な職場環境の改善に努めています。

**■施設内研修（スキルアップ研修）の開催**

| | |
|---|---|
| 4月 | 法令遵守（個人情報／接遇） |
| 5月 | 感染症及び食中毒予防 |
| 6月 | 事故発生の防止 |
| 7月 | メンタルヘルス対策（職員会議内にて） |
| 8月 | 身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止 |
| 9月 | 医療ケア（褥瘡予防） |

| | |
|---|---|
| 10月 | 非常災害対策 |
| 11月 | 感染症及び食中毒予防 |
| 12月 | 事故発生防止 |
| 1月 | 認知症ケア |
| 2月 | 防災訓練実施 |
| 3月 | 身体拘束の適正化及び高齢者虐待防止（オムツ交換） |

## Ⅲ　安定運営のために月間稼働率94％を実現するとともに新しい介護報酬への対応に取り組む

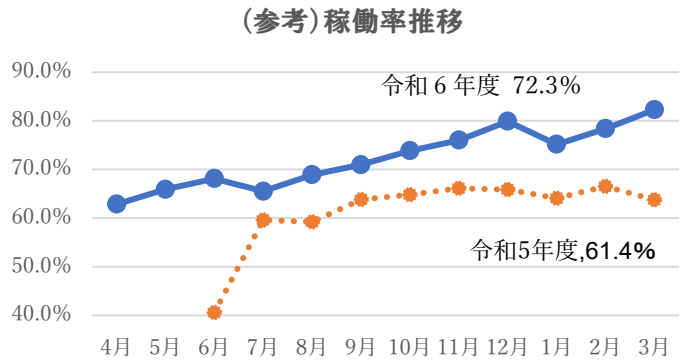
稼働率については、満床には至らず、職員確保および入居者の確保の両面で課題があり、月間稼働率94％の目標には届きませんでした。しかしながら、14ユニット中13ユニットを開放し、稼働率の向上に向けて取り組みを継続しました。また、入居者の医療ニーズに柔軟に対応するため、新たな協力医療機関との提携を実施し、受け入れ体制の強化を図りました。介護報酬改定については、最新の基準に基づいた体制整備および業務運営の見直しを行い、適切に対応しました。さらに、2月には横浜市による指導監査が実施され、結果として文書による指摘事項はなく、一定の運営水準が確保されていることが確認されました。

**■指導監査結果**

| | |
|---|---|
| 実　施　日： | 令和7年2月18日（火） |
| 監 査 種 類： | ⑴指導監査【老人福祉法第18条】　⑵運営指導【介護保険法第23条】 |
| 指 摘 事 項： | 文書指摘事項なし |

■稼働率推移

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ人数 | 2451名 | 2656 | 2656名 | 2640名 | 2776名 | 3666名 |
| 稼働率 | 62.8% | 65.9% | 68.1% | 65.5% | 68.9% | 71.0% |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 延べ人数 | 2975名 | 2964名 | 3220名 | 3029名 | 2853名 | 3316名 |
| 稼働率 | 73.8% | 76.0% | 79.9% | 75.2% | 78.4% | 82.3% |




| | 計 | |
|---|---|---|
| | (R6年度) | (R5年度) |
| 延人数 | 34304名 | 31113名 |
| 稼働率 | 72.3% | 61.4% |

■入退居状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入居 | 2名 | 2名 | 3名 | 2名 | 5名 | 6名 |
| 退居 | 0名 | 3名 | 0名 | 2名 | 2名 | 0名 |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 入居 | 5名 | 5名 | 3名 | 4名 | 4名 | 9名 |
| 退居 | 1名 | 2名 | 5名 | 3名 | 1名 | 4名 |

| | 計 |
|---|---|
| | (R6年度) |
| 入居 | 50名 |
| 退居 | 23名 |

Ⅳ　地域社会に開かれた信頼され愛される施設を創りあげていく

日々の活動としては、毎週の習字サークルを継続し、入居者の活動の場を提供しました。また、好評のフラワーレクリエーションは月2回に増やし、より多くの方にご参加いただけるよう工夫を重ねました。さらに、新たにファゴットの音楽ボランティアも迎え、音楽による癒しの時間を提供しました。地域交流の取り組みとしては、地域自治会の会合に参加し、地域の声に耳を傾けるとともに、関係構築に努めました。地域住民向けの施設見学会を開催し、施設の取り組みや日常の様子を広く紹介しました。また、認知症カフェでは職員が講師を務め、地域への啓発と支援の一端を担いました。さらに、防災面では福祉避難所としての役割を果たすため、自治体と協定を締結し、地域の安心・安全に貢献する体制づくりを進めました。これらの活動を通じて、地域に開かれた信頼される施設づくりに向け、着実に歩みを進めた一年となりました。

## 5. 令和6年度短期入所生活介護スミール荏田実績報告

Ⅰ　施設サービスが自宅での生活と連続したものとなるよう配慮しながらサポートしていく

令和6年6月にショートステイのユニットをオープンし、本格稼働を開始しました。自宅での生活との連続性を意識したサービス提供に努め、夜間の消灯時間を設けないなど、利用者の生活スタイルを尊重した環境整備を行いました。また、生活に合わせた介護機器の活用や歩行訓練など、自立支援につながるケアを取り入れ、過度な介護に頼らない支援を心がけました。さらに、毎月趣向を凝らしたレクリエーションを実施し、利用者の生活意欲の向上に寄与しました。

Ⅱ　利用者や家族にとっての価値・ニーズを組織的に把握しサービス提供を行う

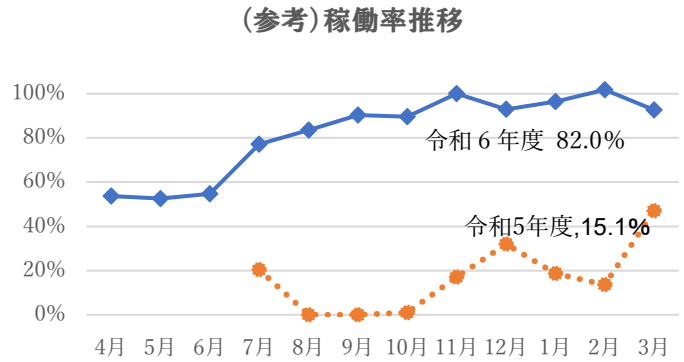
サービス担当者会議への積極的な参加を通じて、利用者・家族のニーズを把握し、個別対応に努めました。問い合わせ対応の迅速化に加え、空床利用46回、緊急受け入れ18回を実施し、柔軟な受入体制を確立しました。また、申し込みセンターへの広報活動の成果として、広範囲からの申込みが増加したと考えられます。土日送迎の実施や定期利用者の確保、面会制限のない運営体制により、利用者・家族の安心感を高めました。その結果、他事業所との併用から当事業所単独利用へ移行されるケースも見られ、ケアマネジャーやご家族との信頼関係構築に大きく寄与しました。

Ⅲ　地域包括ケアシステムの一躍を担い月間稼働率95％の確保を達成する

年度途中からの本格稼働であったため、年間稼働率は82％に留まりましたが、下期には月間稼働率95．6％を達成しました。定期的な入居説明会の開催や、ショートステイ利用から特養入居への支援を通じ、継続的な利用促進に取り組みました。これらの取り組みは、次年度におけるさらなるサービスの質向上に向けた基盤となったと考えます。今後も、地域ニーズに応じた柔軟なサービス提供と、利用者一人ひとりに寄り添った支援に努めてまいります。

**■稼働率推移**

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ人数 | 161 名 | 163 名 | 164 名 | 239 名 | 259 名 | 285 名 |
| 稼 働 率 | 53.7% | 52.6% | 54.7% | 77.1% | 83.5% | 90.3% |
| | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
| 延べ人数 | 278 名 | 300 名 | 288 名 | 299 名 | 285 名 | 287 名 |
| 稼 働 率 | 89.7% | 100.0% | 92.9% | 96.5% | 101.8% | 92.6% |




| | 計 | |
|---|---|---|
| | (R6 年度) | (R5 年度) |
| 実 人 数 | 107 名 | 26 名 |
| 延 人 数 | 2994 名 | 458 名 |
| 稼 働 率 | 82.0% | 15.1% |